

## 第2回県西地域活性化推進協議会 会議結果概要

(H26. 3. 24 16:30~18:00 於：神奈川県小田原合同庁舎3階会議室)

### ○ 開会（政策局副局長）

### ○ 知事あいさつ

黒岩知事：本日は、お忙しい中、県西地域活性化推進協議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。実は、この会議の前に小田原の東栢山地区で、菜の花畑を作って地域を活性化しようと里地里山の取組みをやってらっしゃる方がいまして、去年の11月に1回見に行ったのですが、今度、菜の花が咲いた時には、ぜひ見ていただきたいと言われ、また来ますと約束をしたので、立ち寄りしました。これは小田急電鉄と組んでの新しい形での地域活性化策でありまして、着々と進んでいるということ、この目で確認をしてきました。

昨年末に開催いたしました第1回の協議会では、地域の皆様から幅広く伺ったご意見、ご提案をもとに、素案を作成してお示しいたしました。その後、この素案に対しまして、さらにご意見、ご提案をいただきながら、具体的なプロジェクトの取りまとめを行ってまいりました。今回、最終的な案の形で整理することができましたので、皆様にご協議いただくためにお集まりいただきました。短い期間の策定にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

県の平成26年度当初予算につきまして、現在、県議会で審議をお願いしているところです。「かながわ未来創造予算」と名づけ、緊急財政対策の成果を踏まえまして、しっかりとした未来を作っていこうという積極的な予算になっており、この県西地域を活性化させるための予算もしっかりとご提示しています。そんな中で、様々な具体策を早くまとめて、実行に移していきたいと考えておりますので、皆様の積極的なご意見をどうぞよろしくお願いいたします。

### ○ 新たな委員の就任について（政策局副局長）

### ○ プロジェクト案説明（政策局副局長）

### ○ 「新たな観光の核づくり等促進交付金」説明（政策局副局長）

### ○ 質疑・意見交換

**小田原市長**：非常に多岐にわたる内容が、これから早いスケジュール感で動いていくという印象を受けておりますけれども、まず、基本的な部分として、我々県西地域の方でも各市町、当然、平成26年度に向けた事業を組んでおりまして、予算をつけて取組みを進めていきます。そういうものも、この県西地域活性化プロジェクト案の中の事業に相当程度包含してくると思うのですが、冒頭お話があったように、成長する計画ということでございますので、やりながら進化をしていく。特に「未病」については、概念の浸透も含めて、かなり、県と我々の方とキャッチボールをしながら育てていくことが必要になってくると思うのですが、相当、事業の本数が多いので、この後の事業の突き合わせと言いますか、調整というか、財源獲得等も含めて、その辺の体制はどんなイメージか、それをまずお話いただきたいということと、あと、いくつか示されている事業項目の中で、どういうものを指しているのか、やや定義があいまいな部分があるので、それをわかる範囲で教えていただきたいのですが、例えば、12ページの「未病いやしの里センター」というものと「未病センター」というものがあるって、この2つについてはどういう概念分けをされているのか、そういったことは他にもあるのですが、まずはその点を教えていただけますか。

**政策局副局長**：まず、体制でございますけれども、県西地域県政総合センター、また、地域政策課に県西地域活性化グループを設けさせていただいています。来年度、4月1日から、市長がおっしゃられたとおり、皆様方と2人3脚でやっていかなければいけないものだと考えてございますので、情報を密にして、連携を取らせていただきながらやらせていただきたいと思っております。それから、次の「未病いやしの里センター」と「未病センター」の概念分けでございますが、この資料の11ページをお開きいただきたいのですが、ここに「未病いやしの里センター」と書いてあります。「未病」への取組みというのは、基本的には全県でしっかりと取り組んでいって、健康寿命日本一を目指していこうということですが、未病に関する情報発信機能、それから、未病の見える化機能を基本的には「未病センター」で全県的にやっていきたいなと思っております。県西地域につきましては、それにプラスして、にぎわいの創出機能として、これは地域活性化ということですので、食の提供ですとか、商品の販売、そういうものをプラスした形で、集客施設といいますか、集客能力のあるセンターを作ってまいりたいと考えています。さらに、下の方に「食」の駅等書いてありますが、こういうものを駅として認定させていただいて、そこに来た人達に、こういうところで食事ができますよとか、こういうところの温泉はこういう入り方をしたほうがいいですよ、といったことをコンシェルジュという形でご紹介をさせていただいて、つないでいくと

いう機能をぜひ持たせたいと思っていますので、「未病いやしの里センター」の方は、「未病センター」に地域活性化のためのにぎわいの創出機能と、コンシェルジュ機能をさらに併せ持っている形のものでございます。

**小田原市長：**確認ですけれども、「未病センター」というのは、これは全県で未病構想を進めていくうえでの核となる拠点として、新たに設置をするというイメージでいいのかどうかということと、「未病いやしの里センター」というのは、各地域における地域振興もできるような機能を持たせたような拠点を県西地域のどこかに置いていくような、そんなイメージであるのか。それは、既存の施設や機能にそういう名前を冠していくのか、あるいは、これからできる施設にそういう性格を抱かせていくのか、その辺のイメージを教えてくださいたいと思います。

**政策局副局長：**「未病センター」の方は、基本的には県内くまなく色々なところをお願いをさせていただこうかなと思っています。そこは箱物を作るというイメージよりも、例えば、フィットネスクラブやスーパーマーケットなどで一緒になってやっていただけたところ。ここで情報発信をするということを考えています。一方、「未病いやしの里センター」は単なる情報発信ということではなくて、にぎわいもプラスして、例えば地域の物産だとか、「未病」の体験ができるようなレストランですとか、そういうものも併せて持てるような形を考えています。これは県西地域に1箇所が望ましいかなと思っていますが、どこに作るのか、そういうことはこれから検討してまいります。

**黒岩知事：**今のことについて、補足で説明したいと思います。「未病センター」といいますのは、地域の方々が身近な場所で手軽に運動や健康に良い食事、健康チェックを行える実践、実感の場として考えています。また、「未病センター」とは別に、「未病」という概念というのは、非常に幅広いわけですから、様々なところに色々と「未病」という名前をつけるために、未病シールみたいなものを作り、例えばレストランに「未病」のメニューというのが貼ってあるとか、そういう協力するお店というものを考えています。色々なところに「未病」「未病」「未病」と貼ってある。既存のところにもそういうイメージ付けをしていくということですね。

一方、「未病いやしの里センター」というのは、新しいものをポンと作るというふうに、わかりやすくお考えいただければいいと思います。どんなものを作るかということは、これから議論を深めなければいけませんけれども、そこに来れば「未病」のすべてがわかるという、まさにセンターの中のセンターということ。それにもぎわいの里になる拠点。そういうものを作りたいと考えています。

**小田原箱根商工会議所：**2点ほど質問と1点ご提案なのですが、まず、最初の

質問は、確か第1回協議会の時に、黒岩知事が「未病」についてご説明なさるときに、東洋医学と西洋医学の融合ということをおっしゃっていたような気がするのですが、今日の案を見る限り、その辺の表現が見当たらないなど思っております、その辺が、この底流に流れている部分だと思っておりますけれども、具体の16の柱の中に、どのように位置付けられているのかということをお教えいただければと思います。

それから、2つ目の質問は、15番の「新たなまちの形成促進プロジェクト」に「ME-BYOタウン」と書いてあります。スケジュールを見ると、26年度にモデルの地区の選定というふうに書いてございますが、まだ、今の段階でお話ができるかできないかわかりませんが、この県西地区の中で、この辺りにこんなものができたらいいんじゃないかという、少し具体的な構想があれば、差し障りのない範囲で構いませんので教えていただければと思います。

最後に、ご提案なのですが、14番の観光開発プロジェクトの中で、地域資源ということが書いてあるのですが、ご案内のように、県西地区、特に小田原は今エネルギーのことに随分取り組んでおります。ほうとくエネルギーという会社もできましたし、色々な企業が太陽光パネルですとかメガソーラーの取り組みをしていますので、そういうものを観光のテーマにできないだろうかと思っています。小田原は首都圏からも至近距離でありますし、もう一つは、実は今、ほうとくエネルギーで研究しているのが、昔あった小水力発電所を、いわゆる産業遺産として復興させようという話もありまして、そういうものをうまく組み合わせると、観光の一つの大きな題材になるのではないかなと思っています。小田原の食、箱根の温泉を絡めた観光の商品づくりに、エネルギーを加えれば、従来よりももう少し先進的な、あるいは少し耳目を集めるようなものができるのではないかと思いますので、ぜひこの14番のところに、少しエネルギーのことも加えていただければと思います。

**黒岩知事：**今のご質問について、私の方からお答えしたいと思います。西洋医学と東洋医学との融合ということをおっしゃっていただきました。その理念は消えたわけではありません。実は、「未病」という言葉自体、これが東洋医学の根本的な考え方で、一丁目一番地ということです。漢方の教科書ともいうべき「黄帝内経」という、2千何百年前の教科書がありますが、その冒頭に、「病気を治す医者よりも、未病を治す医者、この医者のほうが上位、良い医者だ」とあります。病気にならなくしていくということ、そのために色々な仕組みを作っていくというのが、「未病を治す」という発想ですので、東洋医学という言葉をおっしゃって「未病を治す」という言葉に置き換えているとお考えいただければと思います。つまり、東洋医学と西洋医学の融合という言

葉をここで使いますと、地域活性化というよりも、何か新しい医療施設でも作るのかと考えられるかもしれません。県西地域で考えているのはそういうことよりも、生活のスタイルというものを、これを新しく作っていこう、提案していこうということに重点を置いていますので、あえて「未病」という言葉に置き換えているとお考えいただければと思います。

「ME-BYOタウン」というものが、県西地域のどの地域を想定して進んでいるのかということですが、現時点で特にはありません。これも、「ME-BYOタウン」というものが、いったいどういうものなのかということ、色々な形で皆さんにご提案いただきたいと思っていますところでは。

それと、14番に対するご提案もありました。大変貴重なご提案だと思いますが、実は、今のご提案と「ME-BYOタウン」というのは、私たちはクロスして考えています。つまり、スマートエネルギーを活用したスマートタウンとかスマートハウスというもの。これは、県も原子力発電所に依存しすぎないエネルギー体系、環境にも配慮しながら地産地消のエネルギー体系を目指そうという「かながわスマートエネルギー計画」というものを今進めているところであり、その一つの目指すべき姿として、エネルギーの地産地消、エネルギー自立型、そういった家を作っていきたい。そして、そういう町を作っていきたい。エネルギー自立型というのは、系統とつながっていかなくても、自然再生エネルギーを自分達で作って、そしてそれを蓄える。ガスコージェネレーションを使いガスを電気にも変える、熱にも使う。その全てをICTによりコントロールしていく。系統につながっていかなくても、エネルギーを作れる独立型の家、スマートハウス、スマートタウンを目指していこうという動きを今進めているところであり、それと「ME-BYOタウン」といったものを併せた概念としてやっていけないだろうかと考えております。これも、皆様にこれから色々なお知恵を出していただければ、それがどんどん進化してくると思っています。例えば、ICTでコントロールされた家のセンサーが高齢者の見守りに生かされるということもあるでしょうし、また、その家の中で「未病」の状態をチェックする。色々なセンサーをつけることによって、「未病」の状態をチェックしながら、それを改善していく。そういったものが合体したようなまちづくりも考えているところで、様々な地域の特性に合わせながら、色々なものを提案して、こちらから発信していこうと考えています。

**大井町長：**今日説明を受けて、なかなかご苦勞をされたのではなかろうかなと思います。話を聞いておりますと、前にもこんな話を聞いたなというようなものもあります。また、この中に、新年度に「新たな観光の核づくり等促進交付金」というものがありますけれど、この近隣も県の色々な観光施設と

どうか、良い温泉があるというようなことで箱根あたりに障がい者の保養施設、また、山北あたりでも勤労者の保養施設がありました。この15年の間に県の財政的な問題から、スクラップされて今日を迎えています。だから、この県西地域は、「活性化をする」というようなことが課題になっているのではないだろうかと思っています。また、「新たな観光の核づくり等促進交付金」ということで、ただ観光だけに行ってしまうのかどうなのかということ。併せて20ページの、「クライנגルテンの整備促進」ということで、私は15年くらい前から、これを言っていたのですが、神奈川県は滞在型というようなことだと、そこに定住して困るから、滞在型というのは許可しない、というようなことを言っていた時代もありました。そして過去には、この地域は定住促進地域と言われた時代もあったわけでございますけれども、そういうような流れから、今日、「未病」をテーマに県西地域の活性化をしようという空気が芽生えたのではないかなというように思うのですが、やはり一貫性を持ってやるというようなことが、将来に向けて重要ではないかと私は思います。その辺のところはいかがでしょうか。

**黒岩知事**：私も過去に皆様が色々ご経験されたことについて詳しくは存じ上げませんけれども、県西地域を活性化させる必要があると考えています。なぜ「県西地域の活性化」かということ、今、神奈川県の中で二つの特区が動いています。東には、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区。県央では、さがみロボット産業特区。県西地域で何かもう一つ核になるものがないかなという思いがあり、また、皆様との日常的な意見交換の中で、県西地域には何かないのかというご意見をずっと聞いておりましたので、ずっと自分の中でそういう宿題を持っていました。その中で、今最大の課題というのはこの超高齢社会であり、これが圧倒的な勢いで進んでくる。これをどう乗り越えてくるかと考えた中で、県央、県の東でやっている、最先端の技術の追求というだけでは乗り越えられない。そうではなくて、まさに「未病を治す」という表現をしていますが、ライフスタイルを変えていくということ、これを融合させることが大事であり、「未病を治す」という視点に立ったときに、県西地域の持っているポテンシャルというものが相応しいだろうと考えました。温泉もあれば山も海もある、色々な幸もある。こうした豊富な資源を一つのコンセプトとしてまとめ上げるということで、「未病を治す」という一つの旗を掲げた次第であります。これは大きな旗でありますから、具体的に何をやるということは地域地域の皆様に色々知恵を出していただきたいと考えています。これはと思うものを早く我々は見つけないかと思っております。今までのプロセスの中でも皆様のご意見をずっとお伺いしながらまとめ上げたものが今日、ご提案したものであります。そして、そういったもの

の中で、これはすぐに行ったほうが良いなと思うものに対しては、ある程度の財政的な裏付けがないと政策は進められないということがありますので、あえて用途を明示しないで1億円という予算を用意したということです。これから先は、知恵比べと考えるいただければと思います。ただし、「未病を治す」という言い方をしておりますので、それぞれ皆さんが地域地域で、例えば温泉を活用した健康に良いまちづくりなど、それぞれの地域の資源を利用して色々なことをやっていこうということは、それは何も否定するものではありませんが、これをまた色々な形で新しいコンセプトのもとにまとめ上げていく中で、新たなステージが見えていくだろうという気持ちで今進めています。ですから、第4の観光の核とひっかけているのは、予算の作り方の中でたまたまそうなっているだけであり、「未病」の一つの戦略的拠点づくりの中で、なるほどな、というプロジェクトが出てくれば、そこにもこの1億円の中で権利を差し上げましようと考えているところでありまして、そのようにご理解いただければと思います。

滞在型についてですが、滞在されたら困るんだという発想が昔あったというように聞いて、私も今驚いています。今、神奈川県観光にはそれなりの力はある。しかし、日帰りが非常に多いというのが実態です。もっとこれからの神奈川県観光というものをパワフルにしていくためには、周遊型にしていくという課題もあるし、それから長期滞在型というようなことも、これまでの皆様との意見交換の中で、私はそれを神奈川県の大きな課題だなと認識しておりましたので、「未病を治す」という大きなコンセプトの中で、この県西地域もそういった新たな観光の姿というのを見せていけるのではないかなと考えて、あえて今回、クラインガルテン等々の提案をさせていただきます。

**大井町長：**そうしますと、資料2-2の、「新たな観光の核づくり等促進交付金」というのは、観光に特化しなくても未病対応というような考え方でよろしいでしょうか。そして、「クラインガルテンの整備促進」について、実現に向けた検討を行いますとあるが、検討期間はどのくらいで実現が可能になるのでしょうか。

**政策局副局長：**資料2-2でございますが、交付区域と書いてございますように、新たな観光の核づくりとは別に、「県西地域活性化プロジェクト」を実施する市町の区域となつてございますので、今ご議論いただいているプロジェクトに基本的には位置付いているもの、「未病」でつないでいく活性化策で、非常に重要だと思われるものについては、こちらの方で対応をさせていただくということでございます。

それから、クラインガルテンの方でございますが、これは、市町と相当話

を詰めていかないと、県だけで旗を振っていくわけにはいきませんので、できるだけ早期に皆様方とご相談させていただきたいと思っております。

**南足柄市長：**「未病を治す」をコンセプトとした活性化策でございますが、地域資源を利用・活用して、そこにつなげようということで只今説明いただきました。県西地域、特に足柄平野は豊富な清澄な良質な水があります。水という資源は色々な面で健康づくりの源にもなりますので、水を生かした産業の創出、あるいは健康づくり、病気を治していくことにつながると思っていますので、その辺の要素はどうかなと思いました。先ほど、洒水の滝のところでは全国名水百選などもありましたけれども、全国に向けての名水の場所は県西地域、特に足柄平野は南足柄も加わっておりますし、まだ神奈川県内にはございますので、取組みの非常に重要なファクターがここにあるかなと思えます。農の部分であっても、色々な面であるかと思えますので、その辺はどうなのでしょう。

**黒岩知事：**水については「水のさと かながわ」という打ち出し方をしております。神奈川は非常に水が豊かなところで、それはかつて先人達がダムをしっかりと作ってくれていたということがあり、神奈川県は水不足という言葉がないという、そういう非常に恵まれたところにある。しかもただ単に水の量があるだけでなく、良質な水に恵まれているということがありますので、これは大きな神奈川の売りだということで、色々なところでアピールをしています。そんな中で今回「未病」という言葉を出してきましたけれども、「未病」と水は非常に密接に絡んでいます。「未病」というのは要するに、食のあり方によって健康を維持してくる、健康を増進してくる、病気にならなくしていくという中で、どんな水をどれだけ飲めば良いか。これは温泉を含めてですけれども、そういったことを「未病」という言葉で引き寄せながら、それぞれの地域が持ってらっしゃる水の資源・力というものをアピールさせていただきたいと思えます。

**松田町長：**この「未病いやしの里づくり」の中に二つほど足されたらどうかなということでご提案があります。人に来てもらわないといけないので、その方法としてのご提案についてお話させていただきます。

里づくりで、松田町には寄という地域があって、そこに「ドッグラン」があります。そういったものを活用した、動物セラピーといいましょうか、障害を持たれている方々も来ていただけるような形で、他の地域にもそういったものがあればどうかなというのが一つです。あと、2020年にオリンピックがありますという話の中で、海外から来られる方々がこの地域に来られたときに、やはり英語等を話せる人がいないと、おもてなしもできにくくなるかなと思えます。各市町の方々は多分、独自で色々工夫してやられていると



思うのですが、英語をしゃべれる人たちの教育だとかそういうもので、何か補助をしていただけたらすごくいいのかなというのが1点です。あと、もう一つは、ここに里づくりはできました。いかにそこに人に来てもらうかというところで、この辺の地域というのは、人が外に出て行ってしまっているということがあるので、外からこちらに来てもらわないといけないというのは同じことだと思います。その中で神奈川県には二つの特区があるので、企業がたくさん立地していると思いますが、企業が他の県だとか他のところに行くんじゃなく、そこにいてくれと言うか、ぜひそこで企業の人たちの癒しの場として、専属でどことどこ、強制まではできないにしても、何か強力で推進してもらって、企業の方々にこちらにきていただくということとか、あとは、少し動いてはいるんですけども、マンションのディベロッパーの方々とか、今現在マンションに住んでいる方々に、先ほどクラインガルテンの話もありましたけれども、農園付きマンションとか、今住んでいるマンションの方々に収穫祭だけでも来ていただけるような農地を作って、農地バンクというのを今少しずつ作っていかうということで、発想はしているんですけども、そういったところで、土地に住んでいる方々が来やすいような、状況を作っていくような仕組みができてくればいいかなと思って、松田町としても少しずつ動いてはいるのですが、その辺をご提案させていただきます。

**黒岩知事：**動物セラピーという話がありましたけれども、これも「未病を治す」というコンセプトにぴったりくる話で「ドッグラン」というのも非常に我々も注目しているところです。「ドッグラン」ということについても、新しく日本ヒューマンドッグ協会というのも実は立ち上がっています。そういったものがまさに、市町から逆にご提案していただきたいと思うところです。動物と一緒にうまく暮らしながら、そこで犬を走らせたり散歩をしたりすることが実は飼い主の「未病を治す」ことにつながっていくんだという、そういうコンセプトで作って上げていただければ、まさに「未病を治す」というのとまちづくりというのがぴったり合ってくるのかなと思います。

オリンピック開催に向けて英語をしゃべれる人が増えてくればいいというのはそのとおりでありまして、今、県でも、オリンピックに対して、一体そこまで何ができるかということを中心に挙げて色々な形で検討をしている最中です。英語というのは非常に大きな、重要な要素になってくると思いますけれども、そのために特別な補助金を作って皆さんにご提供するというだけの余裕は申し訳ないと思いますけれども、色々な機会を作るというのはあり得るかと思っています。

それといかに人に来てもらうか、企業に来てもらうかということはまさに重要な要素でありまして、例えば県の知恵袋会議のメンバーでもありますけ

れども、日本政策投資銀行の藻谷浩介さんという人の本が大ベストセラーになっています。それは「里山資本主義」というものです。今日はそういう思いをもって、先ほど申し上げましたけれども東栢山の里山を再生しようという動きを見てきたわけです。つまり、これが県西地域にとって非常に大きな力で、里地里山と言ったときに、横浜よりもはるかにこの県西地域の方がそういう魅力に溢れているわけです。今、「里山資本主義」がなぜ売れているかということ、みんなの気持ちの中にそういうものがあるわけです。要するに大都会の狭いところで暮らすよりも、もっと大自然の中でゆったりしながら、ゆったりした気持ちの中で生活していくことの価値観を見出そうという。資本主義ということ、お金を稼ぐものだと思ったけれども、実は、それによって失われているものがいっぱいあるだろうという。そうではなく、もしかしたら収入は低いかもしれないけど、自然とともに生きられる、そういう価値観の方が良いだろうという本が売れているということは、そういう気持ちがあるということだと思います。その受け皿を作るということは、まさに今進めようとするコンセプトづくりの中で、大きな要素としてあり得ると思っていますので、そうしたものをそれぞれの市町皆さんが、我が町はこんな形で里地里山に来られるようなエリアを構築するから、こんな企業に、こんなふうに来てください。こんな仕事をしながら、こんな生活ができますよという、そういう絵姿を書いて提案いただきたいと思っています。農園付きマンションというのも、まさにそういう具体的な絵姿の中で出てくる一つのアイデアかと思っています。

**中井町長：**この「未病を治す」という話は昨年8月に、1市5町と知事との懇談会の中で伺いまして、そのときに私は温泉もなければ岩盤浴もないという中で、中井町は何かと考えると、中井町の自慢になるのは先ほどのお話のように水でございます。ただ、水と空気が美味しいからでは人は集まらない。そういう面では昨年も申し上げたとおり、森林浴ということで林の中を散策することによって、これも商工会の皆さんや退職者の方から町と協働のまちづくりを進めるということで、手を貸していただきまして、山林の中の散策路づくりを進めていただいているのですが、働きながら健康で過ごせるというのは、一つの「未病を治す」ではないかと私は思っております。その他に、本当に中井町でこれだというものがなかなか見当たらないので、できれば皆さんからご提案いただいた中で、まちづくりにつなげていきたいと思っております。本当に提案型ということになりますと、なかなか中井町は難しいわけで、できる限り健康で、高齢化が進む中で何とか高齢者の方にも手を貸していただいたまちづくりをすることが、「未病を治す」につながるかなと思っているところでございます。

**黒岩知事**：今森林浴という言葉が出ましたけれども、言葉というのは面白いものだなと思います。森の中を散歩するとかハイキングとか山登りとか、そういうことは昔からあったわけですが、森林浴という言葉は昔からあったわけではない。それが今、森林浴という言葉を使うと何か魅力的に思えてくる。言葉というのはそういう面があるのではないのでしょうか。例えば、それを森林セラピーと言ってみたり。先ほどの、犬の散歩じゃないかというのを「ドッグラン」とか「ドッグウォーキング」と言ってみると、何となく新たな価値観を感じさせるというところがある。「未病」という言葉はよくわからないからあまり使うなと言われましたが、逆に言うと「未病」という言葉が新たなコンセプトだということです。だから、先ほど間宮町長もおっしゃいましたけれども、今まで随分色々なことをやっていたと。やっていたことは間違いない。やっていたことを「未病」という言葉に置き換えて表現してみてください。それが、新しい価値観として見えるはず、見えていくようにということで、県は「未病」と言えば神奈川県西にしていこうと全面的な施策として動かしているわけです。だから、そういったもので色々な地域地域のものを見せていって欲しいと思っています。何もないとおっしゃっていましたが、逆に言うと開き直って何もないのが売りになるというか、何もないというのは、これこそ「未病」を治すんだというロジックも実はあり得るのではないかと思います。そういう意味でやはり、それぞれ皆さんの創意工夫というか知恵の出し合いというのをお願いしたいと思っています。

**小田原市観光協会**：小田原は大変皆さんから住んで欲しい、住みたいという要望はたくさんあります。ところが、市街化調整区域で行き詰ってしまっております。今の知事のお話でも、小さい庭があって、犬の散歩道があって、それは大変良いかも知れませんが、そういう土地は全部市街化調整区域です。それを何とか、市街化区域に置き換えていただけたら、この山林にもっと多くの人達に住んでもらえる、そしてこの町の住人になってもらえるということが増えるのではないかと思います。小田原市はだんだんと人口が減ります。やはり静かな山の中の小さな家で静かに住みたいという希望はたくさんありますけれども、全部市街化調整区域で建てられません。それを何とかここで、そういう枠を少し外していただきたい。そうしたら小田原はもっと人口が増えて、そういう道も開けるのではないかと考えております。また、観光協会としても、ここ小田原市はどこを掘っても遺跡が出てきてしまいます。そうすると何にもできなくなってしまう。掘っては埋める、掘っては埋めるということを繰り返していたら小田原市の歴史というのがなくなってしまうし、小田原の公園の中では木を一本とってはいけない、木を一本植えてはいけないという法則があるので、もう手足がもがれたような感じが私

はしております。何とか、これを解決していただけないでしょうか。お願いでございます。

**黒岩知事：**これはむしろ加藤市長に聞いていただいた方が良いかも知れませんが、県としましては、それぞれの市町がどういう市町にしていこうとしているのかという中で、もし県が所管する規制がその妨げになっているのであれば、しっかりと我々は検討していきたいと考えています。遺跡があちこちに出てくるということについては、本当に我々も具体的に目に、様々に直面しているので、やっぱりそういうところなんだと改めて思いますが、それとどう共存していくのかということも、それぞれの市町でしっかり議論していただいて、方向性を示していただいた上で県としてやるべきことをまとめていただければ、その上で判断させていただきたいと考えております。

**大井町長：**都心から一時間以上かけて一戸建てを求めて住むのであれば、やはり200坪かそのくらいの、畑があったり、少しは木が茂っているところで住宅を持つというようなことが可能であれば、この不便な地域に住みたくもありません。都心と同じように30坪か40坪の敷地でないと買えないような、そういう開発をした市街化区域でないと住めないようであれば、この地域に何も家を求めるようなことは必要なくなってくるわけです。ですから、この地域は、緑陰住宅のような、そういう住宅開発ができるようにする。南足柄のグリーンヒルのように有資分譲なんかができるような、そういうような開発ができるように、県がもう少し国にも働きかけていただいて、どうせ不便なところに住むのなら林があったり畑があったりする中で、200坪くらいの土地を買ってそれで家を建てれば、この辺に家を建てる価値もあるわけです。この辺に住もうと思っても、東京に住んでいるよりもっと環境が悪いところに住まわざるを得ない。この辺のところにやはり問題があるのではないかと思います。

**政策局副局長：**単純に土地政策だけでできるのかというところがあるのかなと思います。集落地域整備法の時にも、田園の整備と住宅の整備、こういうものをセットにすればある程度できるということで地域の方に入らせていただいたのですが、なかなか、うまく行かなかった所もございます。それから今、色々な地区計画ですとか、色々な手法で市町村が思い描かれるようなものをサポートできる制度がございますので、ぜひ、私どもの方に市町村の総合窓口がございますので、ご相談をいただければと思います。また、こういうものを切り口にして新たな、先ほどもお話しさせていただきましたけれども、ご相談があれば我々としても一生懸命考えさせていただきますので、よろしくお願いたします。

**山北町長：**2点ほどご質問させていただきます。まず1点目として、15ページ

の「足柄茶バリューアップ」の促進についてですが、町としても足柄茶の関係は協力したいという意向があるのですが、これについては県と民間でやっていただけるという理解でよいのでしょうか。

次に2点目として「新たな観光の核づくり等促進交付金」についてですが、町の26年度予算の大枠が決定している中で、具体的にどのようなものが対象事業になると考えればよいのか、また、募集の締め切りは5月中旬になっているようですが、スケジュールについて、もう少し詳しくご説明いただけたらと思います。

**政策局副局長：**まず足柄茶の方でございますが、町を拒むものではございませんので、ぜひご参加いただければありがたいと思います。

それから、交付金でございますけれども、交付率を見ていただきたいのですが、市町村、それから地元の推進組織の場合には交付率 10分の10ということで、県の方で基本的には全額対応したいと思っています。ただ、ばらばらな形で提案されてしまいますと、我々としても困りますので、市町でフィルターをかけていただきながら、県西地域全域に及ぶ事業ということであれば、ぜひご提案をいただきたいなと思っています。ただ単年度予算で非常に恐縮でございますけれども、これぐらいの想定でやらないとなかなか間に合わないかなと思っております、その辺はご理解をいただければと思っております。

**かながわ西湘農業協同組合：**大変多くの項目がございまして、これらが実現できれば、本当にこの地域の活性化が実現できると、私どもも、非常に農林水産業の果たす役割が大きいということで、その責任を痛感しているのが実態でございます。そういった中で、2、3の提案もございしますが、例えば、「未病を治す」、これにつきましては、なんと申しましても食生活が一番の基本であろうといった場合に、13ページに健康食生活というのがございます。この中に、行政なり私どもも行っておりますが、いわゆる食育活動、こういったものを盛り込んでいただいたうえで、小さい子どもから各家庭がしっかりと食育なり食農教育というものを身につけていくということが、この健康食生活になる一番基本かなということを考えておまして、できましたらそういった食育活動をこの中に盛り込んでいただければありがたいと考えております。

それから、15ページでございますが、今も山北の町長さんからご提案がございましたが、GABA茶につきましては、当JAも既に開発をいたしましたのですが、ちょっと味がうまくいなくて、非常に栄養価は高いんですけども、販売が厳しかったということがあります。それに書いてありますような、ハーブ等を混ぜることによって、もっと付加価値が高まるかなという

期待をしております。

細かい話になりますが、その次に、オリーブにつきましては、既に当経営管内でも栽培する農家が現れておりますから、私も可能性は高いと見ておりますが、フェイジョアにつきましては、一部の町でやっておりますけれども、なかなか難しいかなと考えておまして、ここ等の品目については、まだまだ検討していただいて、もちろん我々も十分すり合わせをしながら、具体的な、この地域の特産物になるようなものを考えていきたいと思っております。

最後に、20ページのクラインガルテンと、24ページのツーリズム、この辺りが分かれて入っておりますが、JAといたしましては、クラインガルテンとツーリズムをセットにしたような農業のあり方、都市近郊の方がこの地域に来ていただきながら農業体験をすることによって、心の癒しなり、余暇を利用するというようなことで考えていけば、これらの活動につきましては、セットにできるような内容かなと思っております。ただ、クラインガルテンの場合には、一つの障害があります。なかなか管内にそういった施設を作ることが、先ほどの土地利用ではございませんが、難しいということがございます。また、あえて施設を作らなくてもですね、管内にはたくさんの宿泊施設がございますから、そういった観光地と結んだ中でのクラインガルテン、こういったものも、観光協会等との中でやれたらということを考えております。そういったことを含めまして、今後しっかりと連携を取り、進めていきたいと考えております。

**黒岩知事：**健康食生活の中でも、食育というのが非常に大事だということ。まさにそのとおりでありまして、食育については、神奈川県は今全体で進めているところです。地産地消の学校給食と、学校給食からそういう習慣を身につけていこうということ。地産地消ということで、学校給食の中に入りますと、子どもたちも自分の生活のそばで育てているものを見ながらそれを食するという事の中で、食とはどういうものなのかということ学習できたらと、これは今強力に進めているところです。それとともに、今日、実は神奈川県庁の食堂でオープンしたのですが、医食農同源メニューというものを毎週提供していこうということで、県内産の食材を使ったメニューを必ず毎週出していく。そういうものを食べることで、こうしたことをどんどん進めていこうと考えています。先ほど申し上げました、「未病いやしの里センター」というものは、まさに食育などを誘導していくための施設というふうにも考えているところです。そこに来れば、すべて見えてくるということです。ツーリズムとクラインガルテンを融合していくという発想、これは非常に大事な発想だなと思えます。先ほど、11ページ、「未病いやしの里づくり」という絵を描いた中で、地域コンシェルジュ機能というものもあります。こ

れは、外から来られる方に対して、ここはこういうふうに周っていったらいい、ここは長期滞在されたい、こういったものをこう組み合わせたらどうですか、というようなメニューを提示するという機能も想定しておりますので、そういった発想にはなるべくお応えしていきたいなと思っています。

オリーブ等の話もありましたけれども、この「未病」という発想の中で、先ほども植物工場などという話もしましたけれども、新しい農産物というもの、こういうコンセプトの中で効能性のある新たな製品を作っていくことも十分あると思います。それは、オリーブひとつにしても、ただ単にオリーブというだけの売りじゃなくて、「未病」というコンセプトにうまく合わせながら、オリーブを打ち出していくということ、そういう意味で、「未病」という大きな看板を使っていたらいいなと思っています。そういった、色々な知恵の出し方というのは、県としてもそれぞれの個別のプロジェクトでご相談をお受けしたいと思っています。

**南足柄市観光協会：**先ほどから、森林浴とか色々話が出ていますけれども、県西地域は7割が森林ということで、この時期になると、お客様が来られても花粉症で悩まされて、やはり「未病」とってはマイナスなイメージがあるんじゃないかなと思います。森林というのは、当然製材にもなりますし、また、地域のエネルギーにもなります。こういうものを早く活用して、最近では花粉の出ない杉の木があるということで、それに更新したらいいんじゃないかなと思います。また、歩いていて、ただスギ、ヒノキの中を歩くのではなくて、季節折々に変わるような木を植えて、それで森林浴を楽しめていけたらいいのではないかなと思いますので、ぜひ県内産の材木を使って早く更新ができるような体制を作っていただけたらと思います。

**黒岩知事：**私も、先ほどから鼻を何度もかんでいるのをご覧いただいてわかるように、花粉症にずっと悩んでいる一人であります。神奈川県は、無花粉スギ、そして無花粉ヒノキというものを見つけ出しまして、これをどんどんこれから広げていきたいなと思っています。そういった中で、花粉が飛ぶから森林が避けられるということでもないかなと思います。私自身が患者としてそう思いますので、それはそれとして、得られるものの方が大きいなという。花粉が飛んでいる時でも、温泉に行って、露天風呂で、というところは変わらないですから。そういったプラスの面をどんどんアピールしていくということでやっていきたいなと思っています。

## 〇まとめ

**黒岩知事：**色々議論させていただきました。今日いただいた色々なことをそれぞれ受け止めながら、さらにこのプロジェクトというものを磨き上げてま

いりたいと思っています。また、今日ご発言いただけなかったことであっても、後で気づかれたことでも結構ですから、どんどん県のほうにお話をいただければと思います。これは、皆様とキャッチボールをしっかりとしながら新たなコンセプトを作っていくということで、「未病」といえば、この神奈川県西だと、これを大きな地域の活力に、活性化につなげていきたいと思う次第です。

○ 事務連絡（政策局副局長）

○ 閉会